

概 要 報 告

期 日：平成 21 年 10 月 14 日（水）・15 日（木）・16 日（金）
会 場：東京都千代田区永田町 1-1-1 憲政記念館（式典・歓迎交流会）
東京都新宿区市谷本村町 10-5 JICA 研究所（代表者会議）
主 催：財団法人海外日系人協会
後 援：外務省、独立行政法人国際協力機構、独立行政法人国際交流基金、全国知事会、東京都、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）、日本政府観光局、日本経済団体連合会、日本商工会議所、海外日系新聞放送協会
参加国：21 カ国 200 名

第 50 回海外日系人大会は、平成 21 年（2009 年）10 月 14 日、15 日、16 日の 3 日間、東京都千代田区憲政記念館、及び東京都新宿区 JICA 研究所において開催した。海外からの参加者は、北・中南米、アジア、ヨーロッパの 21 カ国から 200 名であった。

1 日目は、憲政記念館講堂において式典、各種表彰式および記念公演を行った。その後、場所を会議室に移して、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、歓迎交流会を盛大に開催した。

2 日目の代表者会議には、海外日系団体の代表者らが集まり「海外日系社会と日本—海外日系人大会半世紀を振り返り、共生と繁栄を求めて—」を総合テーマに、海外日系社会にとっての日本、日本語教育、在日日系人、若手リーダーの育成等について討議を行った。討議の結果は、「第 50 回海外日系人大会 大会宣言」としてとりまとめられた。

3 日目は、国会議事堂、憲政記念館展示室、および JICA 横浜海外移住資料館を見学した。

大会期間中、参加者は、外務大臣の招待によるレセプション、衆参両議院議長主催による歓迎昼食会等に出席し、多数の国会議員、外交団、政府高官等と交歓した。

大会第 1 日目 [10 月 14 日（水）]

● 運営会議・ユース会議 ●

午前 10 時から 11 時 45 分まで、憲政記念館第 3 会議室において海外日系団体代表者、海外日系人協会役職員の参加を得て「運営会議」を開催した。この会議は、海外日系人協会と海外日系社会との連携をさらに密にするため、海外日系人協会の運営に関し、広く海外日系社会の意見を求めることを目的に 5 年前から開催している。

会議では、沢地真海外日系人協会事務局長より、海外日系人協会の運営の現状と課題について説明を行なった。塚田理事長からは、協会の財政状況が大変厳しいな

かで、海外日系人大会の開催経費の確保という課題を勘案し、第51回以降の大会の開催について、開催の頻度や内容（規模）などに関し、率直な意見と討議をお願いした。海外日系団体代表者からは、「今後も継続することに意義がある」「在日日系人の参加を働きかける」「スポンサーを付ける」「来年は海外代表がユースも連れて参加する」「日本人も巻き込むようなイベントの同時開催」などの活発な意見が発表された。

また、同じ時間帯に憲政記念館第1会議室において、日本財団日系スカラーシップ留学生、JICA日系研修員、県費留学生等の参加を得て、「ユース会議」を開催した。参加した約40名の留学生、研修員たちは、「日本における外国人子弟の教育問題」をテーマに、日系ユースがプロジェクトを具体化するための効果的な手法についてグループディスカッションを行った。国内の中南米日系児童・生徒を対象とした学校は、経済危機、不就学、親や子どものモチベーションの低下等様々な問題を抱えている。それらを打開し、次世代ユース育成のために、①留学生による出前授業の実施、②学校や日系団体への奨学金に関する情報提供、③目的別DVDやウェブサイトの作成を行うこととし、各プロジェクトの実施責任者を選出した。また、これらの討議の結果は翌日の代表者会議において日本財団留学生会代表者によって発表された。

● 式 典 ●

午後2時00分、憲政記念館講堂において式典を開始した。海外移住先没者に対する黙祷の後、麻生渡会長が開会の挨拶を述べた。次いで鳩山由紀夫内閣総理大臣の祝辞（伊藤昌輝専務理事代読）、衛藤征士郎衆議院副議長の祝辞、福山哲郎外務副大臣の祝辞と続き、祝電が披露された。続いて、ブラジル日本文化福祉協会会長の木多喜八郎氏（ブラジル代表）、パンアメリカン日系人協会名誉会長の春日カルロス氏（メキシコ代表）およびパラオ共和国特命全権大使のミノル・ウエキ氏の3名による海外代表スピーチが行われた。第1回大会から参加している春日カルロス氏は、スピーチの中で過去半世紀にわたる日本と海外日系社会をとりまく状況を振り返るとともに、皇室のご臨席を賜り開催してきた海外日系人大会への参加は、「在アメリカ大陸の日系人として誇りを持って、それぞれの国で躍進し続けるための原動力になるもの」であると語った。

国内からは、河村建夫衆議院議員、藤村修衆議院議員、および高島泉国際協力機構理事からのスピーチをいただき、午後3時05分に式典の部を終了した。

● 表 彰 式 ●

午後3時20分より、第10回海外日系新聞放送協会賞授与式、第6回海外日系文芸祭賞授与式、およびNFSA（日本財団日系留学生会）の主催による第1回絵画コンテスト「私のせかい 自分のメリーとは」表彰式が行われた。

第10回海外日系新聞放送協会賞授与式では、大賞にブラジル、サンパウロ新聞の『伯国の大地に生きる日本女性物語』、キャンペーン・企画・連載部門賞にオーストラリア、日豪プレス『前向きっ！ワーホリング』、ニュース部門賞にフィリピン、マニラ新聞の『首都圏マニラ市を中心に出回った精巧な偽1万円札をめぐる一連の報道』が選ばれたほか、広報部門、写真部門等の受賞作が表彰された。

第6回海外日系文芸祭賞授与式では、応募2,211作品（短歌・俳句の各部門の一般・学生全ての総数）の中から、中田朗子さん（タイ在住）の作品「胎の子の高さに続く花市場」が大賞に選ばれたほか、上位入選者が表彰された。

第1回絵画コンテスト「私のせかい 自分のメリーとは」は、日本で生活する外国籍の子どもたちを対象に実施した絵画コンテストで、日本財団日系留学生会の活動の一環として今回初めて実施された。国内各地より914点の応募があり、子ども部門の優秀賞にはブラジル出身のサクガワ・ヒカリさん、青年部門の優秀賞にはコロンビア出身のシシド・サユリさんが描いた作品がそれぞれ選ばれたほか、学校賞として三重県鈴鹿市のブラジル人学校エスコラ・アレグリア・デ・サベールが選ばれた。

● 記 念 公 演 ●

午後4時15分より、歌手の中平マリコさんによる公演「人と人…結ぶ歌に愛を込めて」を行った。中平マリコさんは、10代でオーディション番組「スター誕生」をきっかけに歌手デビューするも、舞台事故により歌手活動を長らく休止、ディレクター、プロデューサーをしていた。30代後半より歌手活動を再開し、2004年に初めてブラジル、パラグアイの日系社会で公演を行って以来、毎年自費により南米で数カ月間におよぶ公演を行い、高齢者施設等を中心に日本の歌を届ける活動をしている。

公演では、自身の南米公演での経験談を交えながら、童謡、歌謡曲、演歌など懐かしい曲で会場を盛り上げた。

● 歓 迎 交 流 会 ●

午後5時30分より、会場を憲政記念館会議室に移して海外日系人協会主催の歓迎交流会を開催した。

天皇皇后両陛下のご臨席を賜り行った歓迎交流会は、まず麻生渡会長が主催者代表の挨拶を述べ、続いて海外参加者を代表してメキシコの春日カルロス氏が乾杯の発声を行った。その後、天皇皇后両陛下は、海外参加者多数と親しくご歓談された。

午後6時10分に天皇皇后両陛下がご退席された後は、海外参加者および国会議員多数を含む国内招待者あわせて約350名が交流を深めた。

大会第2日目 [10月15日(木)]

● 代表者会議 ●

午前9時30分より、JICA 研究所国際会議場において代表者会議を開催した。参加者は海外・国内合わせて127名であった。

会議のはじめに、塚田理事長が主催者代表の挨拶を述べ、続いて外務省より八重樫永規領事局政策課長、JICA より蔵本文吉中南米部長がそれぞれ挨拶した。

出席者の紹介の後、海外代表者から富田いくこ（アメリカ）、松本アルベルト（アルゼンチン）、二宮正人（ブラジル）の各氏、および海外日系人協会の石丸和人常務理事が議長団として選出され、必要に応じ英語、スペイン語、ポルトガル語の通訳を行いながら次のテーマについて議論を行った。

1. 海外日系社会にとっての日本
2. 共生と繁栄のために
 - 1) 日本語教育機関の活用と強化
 - 2) 在日日系人に活路を
 - 3) 若手リーダーの育成と日系社会
3. その他

在日日系人の活路についての討議では、今年3月から7月まで、地方自治体の外国人相談窓口等において、生活相談補助員として勤務した在日日系人3名が自らの体験談をもとに在日日系人の置かれている現状と課題について発表した。

若手リーダーの育成についての討議では、日本財団留学生会の代表らが、前日に行われたユース会議の報告と併せて、日系ユースとして今後も活動の幅を広げていくことの意義と意気込みを発表した。

会議で討議された内容は、議長団によってとりまとめられ、「大会宣言」として採択された。

代表者会議終了後に同研修所会議室において記者会見を行い、採択された大会宣言について、議長団が発表をおこなった。記者会見には、朝日新聞社、サンパウロ新聞社等の4社が参加した。

● 外務大臣主催レセプション ●

午後6時30分より、外務省飯倉公館において外務大臣主催の海外日系人歓迎レセプションが開催された。岡田克也外務大臣が歓迎の挨拶をされ、海外参加者を代表してパンアメリカン日系人協会会長の矢野敬崇氏（ブラジル）が謝辞を述べた。岡田外務大臣は1時間以上にわたって参加者と親しく歓談され、握手や写真撮影等に応じられた。また、参加者は、国会議員や参加国関係外交団らと交流した。

大会第3日目 [10月16日 (金)]

● 視 察 研 修 ●

午前9時30分に憲政記念館に集合した各国参加者は、徒歩で国会議事堂に移動し、係員の案内のもと、約1時間をかけて国会議事堂を見学した。

その後、憲政記念館に戻り展示室を見学した後、同記念館における衆参両議院議長主催の歓迎昼食会に招待された。歓迎昼食会では、横路孝弘衆議院議長、山東昭子参議院副議長がそれぞれ挨拶され、海外参加者を代表してハワイの富田いくこ氏が答辞を述べた。また、衆議院より、衛藤征士郎副議長、松本剛明、高木義明、東順治、参議院より藤谷光信（以上敬称略）の各議員が出席され、参加者と懇談した。

午後にバスでJICA横浜に移動し、海外移住資料館を見学した。この日がオープニングであった企画展「海を渡った花嫁物語」を見学し、日本女子大学の島田法子教授によるギャラリー・トークに参加した。参加者の中には、この企画展のために貴重な写真や資料等を提供した「花嫁移民」も多く、展示を熱心に見学し、当時を懐かしむ様子が見られた。その後、参加者は東京駅へ向けた3台のバスに乗り、それぞれの帰路についた。

以上で、第50回海外日系人大会は3日間の公式スケジュールを全て終了した。

以 上